

電灯潜り(夜)編

1、クブシミ(甲イカ)の突き方

まず、ポイントですがクブシミは基本的に満月等の月の出る夜にリーフに出てくる傾向にあります。そして、潮が満ちている状態の時はイノーの中の浅瀬にもやって来ますが、潮が引き始めると、潮の水位を追うようにリーフの外に出て行ってしまいます。(必ずしもそうではなく、イノーの中にとどまっている場合もある)



クブシミを見つけたらまず海中電灯を真上から照らします。そうすると、月明かりと勘違いしたのか、その場でおとなしくじっとしています。この時大切なのは、出来るだけ真上から照らすという事です。真横だと逃げる場合があります。

次にクブシミの真上からそっと潜って近づき、足の付け根の部分で甲羅が真中にとがっている所を狙います。正確に言うと、そのとんがりのすぐ下が(だいたい目と目の間)急所となっていて、そこを狙っています。この部分を上手く突く事が出来れば、クブシミは墨を吐くことなく、即死させる事が出来ます。更に、甲羅の部分は真中から縦に1本線が入り白と茶色の色に分かれて変色します。

もし、急所を外してしまった場合は、暴れて沢山の墨を吐きだします。ですからすぐに潜ってクブシミを抱え込み、クブシミの目に思いっきり人差し指を突っ込んで第一関節を甲羅の方に曲げます。その部分は目と目の間で感触的に言うと少しへこんでいるような感じになっています。その部分が本来狙っていた部分で急所になります。指が急所に届くと動きがピタッと止まります。最初の内は手こずるかもしれませんが、鮮度と墨を保つ為にしっかりとシメテおく事をおすすめします。更に、海から上がったなら、結束バンドで墨袋の出口を縛っておきましょう。そうしないとどんどん墨が出て行ってしまいます。

クブシミは、墨汁にして食べると最高に旨いんですよ。

